

自然の豊かな湧き水の恵み

民家の庭に自噴井戸

木原地区には、自噴を続けている井戸が数か所現存しています。土屋和男さん宅内にある自噴井戸は、その内の一つで100年以上も前から民家の水源として利用されてきました。周辺の地下水脈が通じているようで湧出量が非常に多く、生活水のほとんどを賄っています。この水は、1年を通して水温が12度ほどと一定しており、土屋さんは「夏はトマトやスイカを冷やしておくで適度に冷えて最高に美味しい」と、こうこうと湧き出る水を飲みながら話します。また、道を挟んだ長徳寺の参道口にある自噴井戸は「かめやの井戸」と称され、以前ここに住んでこの水を飲んでいた人は、107歳まで長生きしたと言われています。



自宅庭にて「毎日飲んでいるけど、美味しいねえ」と話す土屋和男さん つちや かずお



長光寺に到着した、孫2人と参加した女性は「近くに住んでいても歩くことが少ないので良い機会になりました、また参加したいです」と話します

【長光寺のしだれ桜は、「ウハヒガンしだれ」と呼ばれ、樹齢は約300年、高さ15メートル、幹の太さ5メートル。毎年3月下旬から4月上旬に見事な花を咲かせます。このほか妙宣寺にも美しいしだれ桜の銘木があります。】

枝垂れ桜の名所をご一緒に

駅からハイキング桜めぐり

駅からハイキング桜めぐりは、3月28日、さんぶの森公園をメイン会場に、3つのコースに分かれて開催しました。JR成東駅スタートの13kmコース、JR日向駅スタートの8kmコース、そして、さんぶの森公園スタートの5kmコース。それぞれの場所からスタートした500人の参加者は、長光寺と妙宣寺の枝垂れ桜を目指します。途中には、満開の木蓮の花も見ることができました。長光寺、妙宣寺の桜はともに満開で、参加者を喜ばせてくれました。さんぶの森公園にゴールした参加者には、地元特製のつみれ汁が配られました。肌寒い中歩いた参加者の冷え切った体を、美味しいつみれ汁が温めてくれました。

戦争なんてなくなればいい

日向小学校で戦争体験談

戦争体験語り部の会代表の高橋さんを含む4人は、2月15日日向小学校を訪れ、6年生63人に戦争体験談の語り部授業を行いました。戦争体験語り部の会代表の高橋照美さんは、「戦争って何？どんなものか知っていた？」をテーマに絵やビデオを使いながら体験談を紹介していきました。

少年時代にB29の機銃掃射を受け、耳をおさえ伏せ、一緒にいた友だちの「まあちゃん」が撃たれ亡くなったこと。昭和20年3月10日の東京大空襲で、8万人とも10万人以上ともいわれる調査できない人々が亡くなった話など。児童からは、「戦争の苦しさや悲しみが伝わってきました」や「戦争を体験した人の話を聞き、戦争は思っていた以上に恐いものだとわかりました」と感想がありました。授業参観後は、校長室で、子どもたちにもどのように平和の尊さを学ばせたらよいかの話し合いが行われました。



高橋照美さん たかはし てるみ

真剣に聞き入る子どもたち